



2017年11月24日

## 第95回ピースボート おりづるプロジェクトの概要とその成果

- テーマ 「核兵器禁止条約を世界に広める」
- 期間および区間 第95回ピースボート「地球一周の船旅」(2017年8月13日(日)～11月24日(金)、横浜発着、全23寄港地)\*における下記区間でプロジェクト実施:  
2017年10月1日(日)～11月24日(金) 計55日間  
ティルベリー(イギリス)にて乗船、横浜まで
- 証言活動 6カ国・8都市にて実施
- 使用客船 オーシャンドリーム号
- 参加者 被爆者 1名 木村徳子(長崎被爆)  
ユース 1名 浦田沙緒音(東京都出身)

### ●主な活動と成果

#### 1 国連での核兵器禁止条約の採択を受けて世界的に核兵器廃絶への機運が高まるなか、核兵器の非人道性を改めて訴え、各国の禁止条約への署名・批准を求めた。

- ・ スコットランド、アイスランド、キューバ、メキシコ、ニカラグアで証言会や意見交換会を開催し、市民から政府高官まで幅広い層に核兵器の非人道性と核兵器禁止条約の重要性を訴えた。
- ・ ニューヨークでは、コスタリカ、オーストリア両国連政府代表部とともに国連第一委員会にて核兵器禁止条約の早期発効を求めるサイドイベントを実施
- ・ ヒバクシャ国際署名を広く呼びかけ、寄港各都市と船内にて889筆集めた。



#### 2 次世代へと記憶をつなぐ活動、アジア市民としての連帯をいかした証言活動への可能性を広げた。

- ・ 核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞受賞を祝うイベントを含め、約1000人の一般乗船者に広く核兵器について知ってもらうよう呼びかけた。女優の東ちづるさんも参加。
- ・ 被爆体験の継承と核なき世界に向けて活動していく「おりづるピースガイド」養成講座を実施。韓国およびマレーシアからの乗船者含む10代～80代の32名が修了。今後、原爆や平和に関する活動に取り組む。
- ・ 被爆者とユースが一般乗船者と協力し、詩の朗読や紙芝居、ワークショップなど、多様な表現とアプローチでの継承活動に取り組んだ。
- ・ 乗船者のうち約200人の日本以外のアジア出身者と多くの対話の場を持ち、アジア市民としての核兵器廃絶に向けた活動のあり方を模索した。



\* 地球一周の船旅の旅程はこちら: <http://www.pbcrui.se.jp/cruiseList/95th/schedule/index.html>

## ●寄港地での活動

### 10月3日(火) | エディンバラ(スコットランド)

スコットランド議会にて「核兵器と気候変動」というテーマでスコットランド国民党(SNP)のビル・キッド議員らと意見交換を実施。核廃絶を訴え、ヒバクシャ国際署名への賛同を得た。

### 10月7日(土) | レイキャビク(アイスランド)

レイキャビク市庁舎において証言会を実施。ライフ・マグロウティル市議会議長の参加のもと地元市民らに核兵器の非人道性を訴えた。

### 10月15日(日)・16日(月) | ニューヨーク(米国)

国連第一委員会にて核兵器禁止条約の早期発効を求めるサイドイベントを実施したほか、船内で行われたイベントでは国連大使や政府高官含む500名以上に向けて被爆証言を行った。

### 10月21日(土) | ハバナ(キューバ)

ジャーナリズムを学ぶ大学生を対象とした証言会を実施。国民の核問題に関する関心が非常に高く、多数の報道につながった。

### 10月23日(月) | コスメル(メキシコ)

コスメル市長受け入れのもと市役所にて証言会を実施。市の関係者および高校生約100名に向けて被爆証言を伝えた。

### 10月29日(日)・30日(月) | コリント、レオン、マナグア(ニカラグア)

コリント市・レオン市で政府高官や市民の歓待を受け、核兵器廃絶のスピーチを行った。首都マナグア市では大学生向けの証言会を実施し、ヒバクシャ国際署名に多くの賛同を得た。

※別途9月28日(金)ポルドー(フランス)にて、乗船者で被爆者の中原富美子(なかはら・ふみこ)さんの記者会見を実施。

## ■参加者略歴

### 《被爆者》



木村 徳子(きむら・とくこ)

長崎被爆 1935年6月25日生まれ 被爆当時10歳

東京都世田谷区在住

長崎市新地町(爆心地より3.6Km)地点にあった自宅の2階で、弟妹とともに被爆。レンガの壁の下敷きになるものの必死に這い出し避難する中で、原爆投下直後の悲惨な状態を目の当たりにした。その後、長崎放送のアナウンサーとして様々な仕事に従事、結婚を機に東京へ移住。それからしばらくして、被爆者として原爆投下時の様子や自身の一生、そして次世代まで残る「被ばく」について、40年ほど前より証言活動を始める。2009年からはその活動に加え、被爆者援護の活動や核廃絶署名活動を行う。2010年と2015年には、ニューヨーク国連本部で行われたNPT(核不拡散条約)検討会議を前進させるために、代表団として参加。現在は世田谷同友会の会長を務めるとともに、東京都原爆被爆者団体協議会(東友会)の実相普及委員会の副委員長を務める。

### 《ユース特使》



浦田 沙緒音(うらた・しおん)

東京都出身、京都府京都市在住 現在23歳

2003年、イラク戦争をきっかけに友人たちと平和活動団体を立ち上げ、Tシャツ販売やワークショップなどを通して発信。芸術でこそ多くのひとに伝える力があると確信し芸術家を目指していた高校生のとき、東日本大震災と福島原発事故(2011年3月)が起こり、京都造形芸術大学進学と同時に京都へ移住。主に社会的要素のある芸術作品を制作している。緑の党(2014~16年京都府本部共同代表)、SEALDs KANSAI、関西市民連合などの市民活動に参加。母の地元が広島で血縁に原爆歌人の正田篠枝氏がいること、父方の祖父が長崎で入市被ばくしているという自身のルーツを見つめ直し、表現者としての経験を積むために今回のプロジェクトへの参加を決めた。

## ■ウェブサイト

プロジェクトウェブページ: <http://www.peaceboat.org/projects/hibakusha>

プロジェクト公式ブログ: <http://ameblo.jp/hibakushaglobal>